

# 錦江に生きる

じゅうきゆうにん目 (その二)

きよやま 一郎さん

(折小野自治会)



▲清山さん夫婦最愛の子ども達、仲良し四人兄妹

▼暖炉の前には編み掛けのマフラーも



このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。  
今回は、折小野自治会の清山一郎さんの続編です。

バイク事故…。返す言葉が見つげ出さないでいると、とし子さんが言葉を繋げた。「正直、最初は本人も家族も絶望しました。でも、すぐに現実と向き合いバンド活動やスポーツを楽しむ息子の姿がありました。」今では、車椅子バスケの日本代表候補なんですよと嬉しそうに表情を浮かべた。たぐましい息子さんですねと返すと「家族がいたから頑張れたみたいです。ある時洋一郎が、「何度もうけそうになっただけど、妹たちの屈託のない笑顔が僕を支えた。自分が頑張れたのは家族の笑顔だった。」と言ったんです。」と話した。二人の顔を見ると、穏やかな表情を浮かべていた。家族の強い絆を感じた瞬間だった。

趣味を尋ねると、一郎さんは「木工が好きで、今はロッキングチェアを作成中だが、時間がなくてなかなか完成しない。」と残念そうに話した。家の中をよく見ると、確かに一郎さんが作ったであろう調度品がたくさんあった。とし子さんは予想通り「料理やお菓子作り」と返ってきた。確かにお菓子の味は天下「二品」だった。そして、一郎さんが笑いながら「家族全員で和太鼓もやっています。とし子だけは断念しましたけどね。リズム感がどうもね…」と、意地悪っぽく言ったり、とし子さんはちょっと拗ねてみせた。恋人同士のような夫婦である。

二人に将来の夢を尋ねると、まず、とし子さんが「私は長女の唾すか香が、「私が勉強するからお母さんが料理を作ってください。お店を開こう」と言っています。私の夢は家族みんなでお店を出すこと。」といきいきと話した。次に一郎さんが「水を求めて田代に来て、いろいろな人に助けられています。田代の人との出会いに感謝し、田代の人たちへの感謝の気持ちでいっぱいです。今、限界集落などが騒がれていますが、私の夢は地域の人々と協力して限界集落の問題を乗り越え、地域とのつながりを大切にしながら地域を盛り上げていきたい。そして、地域に恩返しをしたい。それが夢です。」と話した。揺るぎのない目からは、絶対成し遂げるといふ信念を感じた。

一郎さんは、もとい、清山さん家族はこれからも家族みんなで夢を追う。

錦江に生きる番外編

## 丑年に賭ける

— 子牛の商品性向上めざして —

年男・小鷹 敬志郎

新年、明けましておめでとう  
ございます。昨年は堅調に推移していた子牛相場もトウモロコシをはじめ、世界的穀物高騰に伴って飼料価格が値上りし、牛肉の消費減退と景気後退により枝肉相場が低迷。和牛生産農家は肥育農家の買い控えから、子牛相場下落の要因となりました。しかし、過去を辿れば、口蹄疫やBSEの発生など幾度となく難関を乗り越えて来ましたが、これらが正念場です。外国穀物相場、海上運賃など落ち着いて来たようですので飼料価格上昇も峠を越え、価格も安定の方向に向かうと思います。しかし、こういう状況の中でも高値で取引されている子牛市場があることを忘れてはなりません。我が肝属家畜市場は、年間取扱頭数においては、とりの首於家畜市場に次いで県内二位であります。価格については下位にあります。高値で取引されている市場は、県内・外からの購買者が多く子牛に魅力があるからです。我が肝属市場は頭数においては魅力があります

が、商品性(品質)においてはもう一つ魅力が足りないからです。平成二十一年は、特にこの下位にある価格を引き上げるための対策を講じたいと思います。一年で解決する問題ではありませんが、きもつき牛本来の量と質を兼ね備えた素牛供給産地として、最低限の頭数を維持し、錦江町の生産農家の皆さんが先頭に立って取り組んで頂けるよう、日夜指導に励みたいと思います。肝属市場の中でも錦江町の子牛価格は上位にあります。しかし、最近の子牛を見ると、発育に大きく個体差が生じていることに気づかれています。即ち、バラツキが大きいということです。一番大切な事は個体管理です。購買者に商品として買って頂く以上、健康な子牛を提供しなくては次が期待できません。毎年、購入して頂けるよう気配りを持った子牛管理でなくてはなりません。体重に拘り過ぎず、体高のある発育の良い子牛を目指す必要があります。農家それぞれがライバル意識を持ち、商品性